

お母さんの耳

小 二

わたしのお母さんは、右の耳が聞こえません。けっこんする前に、とつぱつせいなんちようというびよう気になったそうです。

わたしは、そんなお母さんのことが少しかわいそうだなと思っていました。台どころでごはんを作るお母さんに話しかけても、お母さんには聞こえません。お母さんの右がわで話し

かけても、お母さんは気づきません。スーパーでお友だちに話しかけられても、お母さんにはわかりません。だから、お母さんは耳が聞こえないかわいそうな人だと思っていました。

ある日、お父さんに、「お母さんって、耳がきこえなくて、ちよつとかわいそうだよね。」

と言いました。すると、お父さんは、「本当に、そう思う？」とわたしに聞きました。それから、お父さんと二人で

お母さんのことをかんさつし
らいました。

ました。お母さんは、毎日おい
しいごはんを作ってくれます。
小さな声で、

わたしにべんきょうを教えて

くれます。車のうんてんもする
と言ってみました。お母さんは、

し、おしごともしています。お
「くすぐったい。」

こるとこわいけれど、にこにこ
と言つてわらいました。そして、

してやさしいお母さんです。わ
お母さんとわたしで大わらい

たしは、お父さんに、
しました。

「お母さんって、いつも楽しそ
わたしは、もうお母さんのこ

うだよね。」
とを「かわいそう。」だとは思

と言いました。お父さんは、
いません。お母さんが、台どこ

「楽しそうだから、ぜんぜんか
ろにいるときは、わたしも台ど

わいそうじゃないね。」
ころに行つて、お母さんの左が

と言いました。そして二人でわ
わから話しかけます。お母さん

の友だちを見つけたら教えま
す。右の耳が聞こえなくても、
しあわせそうです。わたしもお
母さんのえがおが見られてし
あわせです。